



群馬県富岡市

# 長学寺「先祖まつり」を訪ねて

取材=小野崎裕宣



参詣者に挨拶をされる生沼善裕住職(右)



長学寺護持会長 金井喜之助さん



お台所を担当された皆さん



大般若転読法要

## かつての城下町に 建つ古刹、長学寺

### 賑やかな笑い声に 包まれて

富岡市は群馬県の南西部に位置し、かつては「加賀藩百万石」で知られる加賀藩の支藩、七日市藩の城下町として栄え、明治期には「富岡製糸場」が創業されました。富岡製糸場は二〇一四年、ユネスコの世界遺産に登録されています。

市街地から北に向かって車で一〇分ほどの小高い山の上に、今回訪れた長学寺（生沼善裕住職）があります。平安時代初期の承和二（八三五）年の開山で、江戸期からは七日市藩主前田家の菩提寺として、地域の信仰を集めました。

毎年三月二五日には、春の恒例行事、「先祖まつり」が開かれます。今回『曹洞禪グラフ』では、先祖まつりの取材を通じ、地域の皆さまの笑顔に触れてきました。

毎年三月二五日には、春の恒例行事、「先祖まつり」が開かれます。今回『曹洞禪グラフ』では、先祖まつりの取材を通じ、地域の皆さまの笑顔に触れてきました。

毎年三月二五日には、春の恒例行事、「先祖まつり」が開かれます。今回『曹洞禪グラフ』では、先祖まつりの取材を通じ、地域の皆さまの笑顔に触れてきました。

朝九時三〇分の開始を待ちわびるよう、境内下の駐車場には早くからマイクロバスが到着し、たくさん

の参詣者が降り立ちます。

語からです。法要の前に、

賑やかなおまつりのスタ

ートは、「相撲漫談」と落

語ではありません。法要の前に、

の参詣者が降り立ちます。

まずはみなさんで大笑い。

取材日の前日に終わつたば

かりの大相撲春場所をネタ

にした漫談に笑い、美声が

響く相撲甚句には、みなさ

んで合いの手を入れて楽し

みました。時事ネタと古典

を織り交ぜた落語家の軽妙

な話術には、オチが分かっ

ていても笑ってしまいます。

たっぷり一時間以上お笑

いを堪能して、楽しい空気

が冷めやらぬ中、住職を導

師に、地域教区の僧侶が参

集しての大般若転読法要と

先祖供養法要が行われまし

た。

この間お台所では、中食

は「やしうま」の転訛によります。この「やしうま」、長野県北部を中心に昔から伝わっており、お釈迦さまの涅槃会に戴くお菓子を意味します。

護持会長の金井喜之助さんはお話をすると、この行事の日には学校も休みになります。現在のように娯楽が多くはなかつた頃のお子さんたちにとつて、何よりの楽しみだつたようです。寒くて長い冬をもう少しで越えようかという涅槃会の季節は、地域の大人の方にとつても、お子さんにとっても、笑い声が響き渡る季節だったのです。

づいている意義を感じる一日となりました。

### 「笑顔を繋ぐ」 おまつりの意義

最後のプログラム、「お楽しみ抽選会」を終つて、お話を伺いました。

現在のおまつりの形が整う以前は、「やしやんま」と言つて、涅槃団子を配る行事が各地域で賑わいを見せていました。東堂様のお話では、「やしやんま

の準備のために裏方のお檀家さんがフル稼働です。毎年二〇〇人分を用意される年二〇〇人分を用意されるということですが、その様子を拝見すると、作業を楽しむかのように、みんなの笑顔がはじけています。テーブルには、おまつり名物の「五目御飯」がどんどん並べられ、お腹がすいた参詣のみなさんの到着を待つています。この五目御飯、お米の弾力と旨さを引き出すために大きな釜を使って直火で炊きあげられおり、やさしく味付けされた逸品です。

護持会長の金井喜之助さんは「やしうま」の転訛によります。この「やしうま」、長野県北部を中心に昔から伝わっており、お釈迦さまの涅槃会に戴くお菓子を意味します。

この間お台所では、中食

は「やしうま」の転訛によります。この「やしうま」、長野県北部を中心に昔から伝わっており、お釈迦さまの涅槃会に戴くお菓子を意味します。

この間お台所では、中食



先祖まつり名物の「五目御飯」



楽しいお食事のひととき



落語家の軽妙なお話に聴き入る



中食の準備に大忙し



相撲漫談に大きな笑い声も



おみやげをいただいた